

# 口腔の役割

## ファストフードとバービー人形

ファストフードは短時間で調理、あるいは注文してからすぐに食べられる手軽な食品や食事のことで、「速い」を意味する”fast(ファスト)“に由来します。

そもそもファストフードの始まりは、広大なアメリカ国内で万人に受け入れられる味付けであったこと、そして「安価」であったことで広まったと言われています。さらに手軽に食べられ、食物エネルギーが大きく、労働効率を上げる食事として受け入れられていったそうです。ハンバーガー、ホットドッグ、フライドチキンにポテト、サンドイッチ、ピザなどがありますが、ご飯とおかずを中心にした食事に比べ、確かに速く食べ終わられそうなものが多いようです。

成人女性を対象にしたある研究があります。ご飯とおかずを中心にした食事とファストフード食の食事時間と咀嚼回数を比べた結果、ご飯食の食事時間は平均約13分半、ファストフードでは約8分半。咀嚼回数ではご飯食の咀嚼回数は平均約1020回、ファストフードでは約560回。したがってファストフードは食べる時間も労力もご飯の半分で済むという事、つまり噛む力はあまり必要ないことがわかります。

一般的に身体の筋肉が発達すると、その荷重に耐えられるように骨が添加しますが、筋肉を使わなければ骨は細く、軽く、もろくなります。顎の骨についても、噛むことが少ない軟らかい食事をとり続けると、同じことが起こります。頭蓋骨の形は遺伝的な要素が強いのですが、長管骨（ちょうかんこつ）と呼ばれる手足や下顎などの動かすことが出来る骨は、環境によって変化するため、下顎骨の形態は日常の食生活によっても大きく左右されます。

ここで、ある調査を紹介します。1960年代から1985年までの卒業アルバムの写真で、下顎の角度を計測した結果、たった20数年の間でも経年的に下顎の角度が小さく、つまり鋭くなる傾向があったのだそうです（「写真実測による顎角度の経年的変化」上田 1986年）。

話は変わり、写真はアメリカのバービー人形の中でも歴代の歯医者さんバージョン（デンティスト・バービー）。どれも患者の女の子の人形が付属するのが特徴ですが、よく見るとこちらでも経年的に下顎の角度が鋭くなる傾向がわかります。アメリカはファストフードの本場。食生活に関係があるのでしょうか？

どんな時代でも、その時代における流行や好みがあるので、必ずしも食生活が人形の顔に現れるとは言えませんが、こちらでも約20年の間の変化。洋の東西を問わず、とても興味深い傾向があることがわかります。

（参考）なるほど・ザ・保健指導 セルフケア編

下野 勉監修 岡崎好秀著 クインテッセンス出版株式会社（1996）



デンティスト・バービー (アメリカ マテル社)  
 左から 1997 年製、2009 年製、2015 年製



付属の患者さん人形 左から 1997 年、2009 年、2015 年  
 経年的に下顎の先端の角度が小さくなります (A>B>C)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

